

令和3年度市政懇談会記録調書

【地区】	佐野中学区
【日時】	令和3年7月13日(火) 午前10時00分～11時30分
【場所】	佐野コミュニティセンター
【参加人数】	15名

目次

佐野中学区.....	1
事前質問.....	2
1 雨水排水の分水化工事の促進について（柏野自治会）	2
2 未利用地の活用について（高野小貫山自治会）	2
3 車両通行の改善について（高野小貫山自治会）	2
4 道路の拡幅・標識の位置変更について（高野小貫山自治会）	3
5 交通事故多発の信号のない交差点について（上高場自治会）	3
6 燃えないごみの収集について（上高場自治会）	4
7 自治会未加入者のごみ集積所の設置について（上高場自治会）	4
懇談質問.....	5
1 防災訓練・耐震診断について（高野小貫山自治会）	5
2 柏野団地の高齢化について（柏野自治会）	6
3 小中学校・義務教育学校の防犯カメラについて（常葉台自治会）	7
4 交通事故防止の事前対策（上高場自治会）	8
5 教員採用について（常葉台自治会）	9
6 佐和駅東口区画整理に伴う交通について	10
7 道路・河川・都市計画担当部署の連携について（高野原自治会）	10
8 教育 ICT について（稲田自治会）	11
9 イベント開催について.....	11
市長まとめ.....	12

事前質問

1 雨水排水の分水化工事の促進について（柏野自治会）

これまでの分水化工事によって一定の減水効果は認められるが、本年度分を含めた今後の分水化計画を提示してほしい。

（回答 道路管理課）

写真等で報告いただいた洪水実績に基づき、今年度は横断管の整備やU字溝を大きくするなど、2箇所の第五次分水化工事を予定しております。

今後の計画につきましては、第五次の整備効果を検証のうえ適宜実施してまいります。

なお、分水化工事の有効性は下流の排水施設の能力に余裕があることが前提となりますので、分水化で解消できない場合には流末となる河川や水路からの整備が必要となります。

2 未利用地の活用について（高野小貫山自治会）

小貫山1丁目29の土地はJR常磐線をまたぐ陸橋のための用地であるが、橋の建設予定が立っておらず未利用となっている。建設工事が始まるまでの間、この区画を公園として整備し災害時の避難場所としても利用することを提案する。

（回答 都市計画課）

小貫山1丁目29の土地は、平成4年に都市計画決定した「高野稲田線」の道路用地の一部です。ご指摘の様に、現在のところ整備の時期は未定となっております。

現在、市では、長期間にわたり一部区間が未完成又は整備が未着手となっている都市計画道路41路線について、茨城県道路再検討指針に基づき計画の廃止・幅員変更なども含めた見直し作業を進めており、「高野稲田線」についても見直しの対象路線となっているところです。

引き続き、県の指針に基づいた見直し作業を進め、その結果を踏まえながら当該土地の活用について検討してまいります。

3 車両通行の改善について（高野小貫山自治会）

小貫山地内及び常盤台地内からJR常磐線の西側に向かうためには、市道佐野地区535号線から同487号線に出ることになるが、当該交差点は信号機が無く、朝の通勤時間帯などは487号線の交通量が途切れないことから、535号線から右折して進入することが極めて困難である。そのため、当該交差点に感应式の信号機を設置するなどの解決策の検討を要望する。

（回答 生活安全課）

市道佐野地区535号線と同487号線が交わる交差点への信号機設置につきましては、地域の要望という形で、ひたちなか警察署と設置について協議してまいります。

その後、ひたちなか警察署で現地調査を行い、設置が必要と判断されれば、茨城県公安委員会に上申が行われ、審議されることとなります。

4 道路の拡幅・標識の位置変更について（高野小貫山自治会）

道路標識が側溝の内側に設置されており、側溝の上を車両が通行できないことから、すれ違いが困難となっている。道路を拡幅するか標識を側溝の外側に移設してほしい。

（回答 道路建設課，生活安全課）

道路の拡幅につきましては、多くの地域からご要望をいただき、緊急性や公益性等を総合的に判断して優先順位を決め、地元自治会や地域の皆様方と協議を十分に行い、ご協力をいただきながら整備を進めているところであります。

まずは地域の要望として自治会等で皆様方のご意見を集約いただいてから、関係地権者の同意を得た道路整備要望書を提出していただきたいと考えております。

また、当該交差点付近の道路標識の移設につきましては、交通規制に関する標識となるため、地域の要望という形で位置の変更をひたちなか警察署に要望してまいります。今回の要望につきましては、今後、ひたちなか警察署で現地調査を行い、標識の位置変更の可否について判断することになります。

なお、警察署からは、標識の位置変更を行う際に側溝の外側は民地となるため、現在標識が設置されている道路脇の土地所有者に対し、要望者において設置の承諾を得ていただく必要があるとのこととです。

5 交通事故多発の信号のない交差点について（上高場自治会）

当該交差点については、毎月のように衝突事故が発生しており、近くの民家への被害も出ている。幸い死亡事故には至っていないが、いつ最悪の事態が起こっても不思議ではない。また、小中学生の通学路でもあり、子供たちの安全の為に一刻も早く信号機設置等の対策を要望する。

（回答 生活安全課）

当該交差点の信号機設置については、所管であるひたちなか警察署でも設置が必要な箇所と判断しており、平成27年以降、毎年、茨城県公安委員会に対し設置について上申を行っております。

また、これまでも市では、信号機設置の上申と並行してひたちなか警察署や関連部署と現地の合同点検を行い、主道路に進入する際に一時停止する従道路側の自動車に対し「交差点注意」などの路面標示や注意看板の設置などを行ってまいりました。

しかし、依然として衝突事故が発生していることから、令和3年4月21日にひたちなか警察署・市道路管理課と合同点検を行い、主道路を通行する自動車に対しても「交差点事

故多し注意」などの注意喚起の看板設置を行うとともに、交差点の横断歩道や「止まれ」の路面標示が薄くなっていることから、警察におきまして、再着色を行う予定です。

6 燃えないごみの収集について（上高場自治会）

祝日、振替休日は、燃えないごみの収集はなく次週に振替となっているが、自治会会員以外の方が使用している集積所では、今年のゴールデンウィークも燃えないごみが目立った。祝日、振替休日にも燃やせないごみを収集するか、ほかに対策を講じてほしい。

（回答 廃棄物対策課）

現在、祝日・振替休日にごみの収集を行うのは燃やせるごみのみとなっております。これは燃やせないごみに比べて量が圧倒的に多いことや、生ごみがあることなどを考慮しているためであり、現在のところ、燃やせないごみの収集を祝日・振替休日に行う予定はございません。市では、収集日等をお知らせするため、毎年、市報折り込みで日程表を配布しておりますほか、祝日等の都度ごとに、前もって市報でお知らせをしています。また、この情報はホームページでもご覧いただけます。

更に、自治会未加入者等への対応としては、マンション、アパート等への「ごみの出し方のパンフレット」の配布なども定期的に行っており、今後も継続して周知に努めてまいります。

7 自治会未加入者のごみ集積所の設置について（上高場自治会）

自治会会員以外の方がごみ集積所にごみを出している。決められた曜日も守らないし分別もしない。更にはごみの袋にさえ入れない、勿論掃除もしない。このため集積所の掃除当番の方及び集積所近辺の方々は、非常に迷惑しており、大変苦勞している。自治会会員以外の方が持ち込めるごみ集積所を設けて、市で管理してほしい。

（回答 廃棄物対策課）

ごみ集積所につきましては、利用者の方に管理をしていただくことを基本としており、同様の相談を受けた際には、張り紙や看板の設置などによる対応をお願いしているところです。また、転入者等に対してはルールに則ったごみ出しを指導するとともに、最寄りに集積所がない場合には、燃やせるごみはクリーンセンターへ、燃やせないごみはリサイクルセンターへの自己搬入をお願いしております。

なお、利用者が多すぎる場合などには、ある程度の利用者のまとまりがあれば、土地所有者の承諾を得た上で、集積所の新設や変更を市に申請していただくことが可能ですので地域でご検討の上、市にご相談いただければと存じます。

懇談質問

1 防災訓練・耐震診断について（高野小貫山自治会）

高野小貫山自治会では、地域の実情に応じたものでないと意味が無いとの考えで、市の総合防災訓練には参加したことがない。この地域での災害は、地震・原子力が一番心配だと思うが、地震に備えた耐震診断が市として全体としてどのように進められているのか伺いたい。

（市長回答）

耐震診断の進め方に関しては、後程、所管部署から詳細な説明をお届けした方がいいと思っておりますので、つなげていただきます。

防災訓練に関して、確かに毎年テーマで例えば台風・水害・地震・津波などありますけれども、やはりその地区によっては当てはまらないというようなところはあるかと思えます。

それぞれの自主防災会若しくはその地域において、テーマを設定していただいて、それに関しての防災訓練というような形で行っている自治会もありますし、それはそれでいいのかなと私は思っております。できれば、その内容を市全体で共有させていただくべきなのかなと思っております。例えば、この地域では市の防災訓練とは違う、こういうことをやったのだけでも、その時にこういう指摘や気づきがあったとか、こういう部分に関してもう少し考えなければいけないとかといった話は地域で共有をしてもらいたいのですが、例えば自治会連合会などで共有することによって他の地域でも横展開できるような話というのはあると思っております。

また併せて、沿岸部など市内の他の地域では、今何が心配ごとなのかというのを知っていただくのは、市民のつながりという観点で有意義なのではないと思えます。

特に、コロナ禍の中での避難所開設というものに関して、訓練をいろいろしておりますが、避難所に来るだけではなくて、本当に避難しなくてはいけないのかどうか、若しくは、避難所ではなくて、ご親戚や親しいご友人のところに一旦避難させていただくとか、避難所以外の避難先というものも考えていただきたいというメッセージを出していることもありますので、例えば、全市的にこういう状況の時には、あの地区は避難が必要な状況になるということ佐野地区の皆さん方も知っていただくというのは、非常に理解が深まるのではないかと思っております。

ですので、それぞれの地区での工夫された防災訓練というものを我々も進めていただいて良いと思えますし、また、そこで組み立てに関して、市でも関わってほしいというようなご要望がございましたら、沿えるようにやっていこうと思っております。

ひたちなか市は割とコンパクトなまちですが、それぞれの地域に海があり、川があり、内水対策があり、それぞれ状況が違うというところがございますので、そういう形で進めていただいているのではないかと思います。よろしく申し上げます。共有の会もありますので、ぜひそういった機会に状況をご披露いただければというふうに思います。

2 柏野団地の高齢化について（柏野自治会）

柏野自治会ができて5, 60年経ち、高齢化が進んでいる。60年前に造成された団地と今の団地では、住環境に大きな差がある。例えば、公園は柏野団地にほとんど無く、遊具も滑り台1台のみである。住環境の差を解消しないと高齢化の進む地域に若い人を呼び込むことはできない。

また、昨年も要望したが、佐野運動広場のテニスコートについて使用禁止になっているが、そこを公園にして、地域に人や子供たちが集まれる場所をつくってほしい。

（市長回答）

柏野団地の状況は、お伺いさせていただいて分かっております。支えていただいている方々の高齢化が、市の中でも顕著であると思っております。また、当時整備された団地の区画が意外ときちんとしているため、今後の展望をどう見据えていくのかがなかなかお答えできない状況でありまして、柏野団地の自治会等の運営というのはまた改めてお話をしていかなければいけないと思っております。

若い人たちが、ひたちなか市、柏野団地若しくは佐野地区だけではなく、集まる取り組みというようなことを考えるにあたり、私も今、小学校4年生と4歳の子育てをしているのですが、私の実感として、その子供の年齢によって課題や悩み、ニーズというのは刻々と変わっていくと思っております。例えば、乳幼児の時は、オムツがどうだという話から、言葉の発育がどうですとか、今度学校に入ると、勉強やスポーツがどうですとか、いろいろ変わっていくのだと思っております。

そうした時に、何か決定的な一つに引かれるということもあるかもしれませんが、そういうことよりは、妊娠中から出産、乳幼児期、幼児期、それから小学校中学校あるいは高校ぐらいまで、切れ目なくいろいろなサービスや事業が品揃えとしてそろえられているということが必要なのではないかと考えているところです。

他の市町村の子育て施策等を俯瞰して調べると、ひたちなか市も他に先駆けて、良いこと、やっていることはたくさんあります。他になくて、ひたちなか市がやっていることがあるけれども、ひたちなか市がやっていなくて他の市がやっているようなことも、やはりあるのも事実です。ですので、市が先駆けてやっていて、他の市に無いものはなるべく維持できるようにして、穴があいている部分の施策に関しては、他市とできるだけ同等程度の施策を品揃えとしてあるような形を整え、何かしらの選択肢があるというような状況をきめ細かく作っていくことが必要なのではと考えております。

その中の一つとして、例えば公園もあるかもしれませんが、公園一つ造れば人が来るようになるというものでもないと思います。いずれにしても若い世代の方が求めている施策がひたちなか市には何かしら品揃えとしてある状況というのを丁寧に作っていきたいというところで、他市比較もやっていきたいと思っておりますので、ご意見をお寄せいただきながら検討していきたいと考えています。

併せて、女性に選ばれるまちづくりというところにも繋がっていくと思うのですが、私もいろいろな方々と、例えば PTA や児童委員さんや民生委員さん等の方々とも意見交換をさせていただきませんが、やはり自治会関係で、女性の役員さんがどういうふうになれば出てきていただけるようになるのかというのが一つ課題だと思っております。

やはり、女性の視点とか女性の気付きというのは多分、男性と違うところがあって、そういった意見も市の方にどんどん寄せていただくように、我々もそういったことを後押ししていかなければいけないと思っておりますので、ぜひ自治会の中においても多様な意見が出てくるような取り組みというのを併せてお願いできればと思います。

柏野団地もそうですが、やはり古い団地の中でどのように今後を展望していくのか。ひたちなか市には 83 自治会ありますが、大きな自治会も小さな自治会もこれまでは同じ足並みでやってきましたが、それも難しくなってくる可能性があるといった時、どのようにしていくのかということは、自治会連合会の方の議題としても上げていただいて、今後を見据えた議論を深めていきたいと思っています。よろしくお願いたします。

3 小中学校・義務教育学校の防犯カメラについて（常葉台自治会）

佐野小学校の引き渡し訓練に立会いをした際、学校に確認したところ、佐野小に設置してある防犯カメラは録画機能が無いとのことであった。高野小は、30 日間録画できるとのことであったが、市内の小中学校で佐野小のように録画できない古いタイプの防犯カメラが他にもあるのかどうか調査していただきたい。

（市長回答）

市内の小中学校に関しては、3 箇所程度、防犯カメラの設置をすべて完了していると認識しております。その中で、一定程度、録画もできるということで、例えば、令和元年の那珂川の越水の際は枝川小学校まで水が来ましたが、その様子を後からどこから水が来たのかということを確認するために3台のカメラで検証しました。水がこっちから来ているから、ここが原因じゃないかという検証を防犯カメラを見ながら私も行っているのでも、録画機能はあると認識していますが、もしかしたら、できない物も一部あるかもしれないので確認をさせていただこうと思います。

（教育長回答）

防犯カメラにつきましては、全ての学校に設置を終えています。今お聞きして録画ができないというのは壊れているか、かなり古いものだと思いますので、確認して対応したいと思っています。

（市長回答）

防犯カメラは、災害の時などもかなり鮮明に周りの状況が把握できるようなものが多く

なっておりますので、状況を見ながら更新ということもやはり考えていかなければいけないのかなと思われました。ご指摘ありがとうございます。

また、質問にはないことですが、この付近の佐野幼稚園で今工事を入れています。園庭と駐車場の拡張という内容です。この付近は、コミセン、プール、それから佐野小学校、佐野幼稚園と子供たちが行き交う施設が近接しており、小学校と幼稚園との連携も一生懸命進めているところでありますので、子供たちの見守り体制などについても検討させていただこうと思います。

4 交通事故防止の事前対策（上高場自治会）

市長の方から、佐和駅の改修工事について説明があったが、東側からの駅へのアクセスが可能となることに伴い、周辺の交通事情の変化を考慮し、信号機を設置しないと事故が頻発することが危惧される。

また、上高場の墓地付近の事故が非常に多発しており、小学校の通学路になっている。行政として危険のある道路の対策について検討してほしい。

（市長回答）

佐和駅の改修にあたって、交通状況の変化に応じた安全対策については、警察も一緒になって検討を進めているところでございます。担当課の方で調整しておりますので、そちらの方での検討の結果をまたお知らせをさせていただこうと思っています。

上高場の墓地周辺の事故についても、以前より、私も聞いておりました認識しております。信号をつける最終的な判断が茨城県警になるので、地域の方々と市も一緒になって、いくつか信号機をつけるべきだという話も含めて、これまでも県の方には投げかけてきておりますが、引き続きしっかりやっていきたいと思っています。

八街市の事故を受けて、市内でも通学路の点検についてはこれから早急にやっていくというところで話を進めております。この件に関して教育長から説明します。

（教育長回答）

八街市の件につきましては、本市でも他人事ではなく、いつ起こってもおかしくないというような危機感を持って、学校も教育委員会も警察も総動員で対策する必要があるのではないかと考えています。7月6日までに各学校で、通学路の危ないところを報告していただき、さらに、7月20日ぐらいまでに各学校で通学路の点検と評価をしてあげていただきます。また、学校でなかなか目が届かないところもありますので、保護者にも通知を出して、危ないと思うところは学校の方に申し出てくださいと周知をしています。

そのように教育委員会で把握した危険個所を、市の生活安全課、道路管理課、道路建設課、都市計画課、それから県道に関しましては、常陸大宮土木事務所、警察署、教育委員会等により、必要に応じて関係機関で合同点検を行います。これをこの夏休み期間中にやっていき

たと考えております。

例年ですと 237 ヶ所を3年に一度ずつローテーションで点検をしておりますが、今年
は全てやっていきたいと考えております。地域の方からもご協力いただく部分があるかも
しれませんが、何かありましたらお願いしたいと思っております。

5 教員採用について（常葉台自治会）

教員採用試験の倍率が下がっており、2倍程度と聞いた。競争率の低下は、教員の質の低
下を招くと危惧されるが、その対策についてどのような考えを持っているか。

（教育長回答）

昨年確かに大変、競争率が低くて、教員の質について懸念があったのですが、今年はその
対策として、試験日程を1か月前倒して、6月27日の日曜日に採用試験をやりました。

また、試験会場を他県にも設け同時開催しまして、広く採用試験を行ったところ、昨年を
大きく上回る倍率になったと認識しています。

昨今、ブラック企業と言われ、教師に魅力がないという人たちも増えてきて、教育大
学に入っても先生にならない人も増えております。そういったものを払拭するために教員
の魅力的なところをどんどんアピールし、また、ブラックと言われているような働き方につ
いても、子供の気持ちや子供の学習、子供を育てていく資質能力を高めるという本来の仕事
をしっかりとやっていって、働き方改革ということを今大きく進めているところです。

現状、月200時間超過勤務をしている教職員も少なくありません。それを何とか来年を目
安に1か月40時間、1年間360時間と言っているのですけれども、なるだけ進められるよ
うに教育委員会としては、タイムカードを設置、校務支援システムの導入、2学期制の試行
等を行っています。

それと、部活動は日曜日はやらないようにして、週1回は休みにしようですか、月曜日
と平日もう1日、部活動をなくす日を作りましょうということは県や国からは言われてい
るのですが、状況をみながら取り組みたいと思っております。

まだ実践はしていませんが、そういった中で授業時数は文科省が言われている授業時数
を確保しながらも、あまりにも抱えてしまった仕事量を精査して、子供たちに直接話を聞い
たり、関わったり、勉強を教えたりすることに、ちゃんと向き合えるようにしていきましょ
うと周知をしているところです。

ただ、なかなか変わらないところもありますので、そういった点では保護者の皆様や地域
の皆様のご理解も必要だと思っております。例えば、今年から全小中学校で留守番電話を導
入しまして、日や学校によって違うのですが、7時とか6時になったら、学校は受電を終わ
りにして、そこから先生たちが自分の仕事に集中してできる状況をつくる取組みです。

6 佐和駅東口区画整理に伴う交通について

小貫山から駅の方に向かう、あるいは国道6号の方に向かう道路の問題は、ぜひとも何とかしていただかないといけない。

特に今、進めている佐和駅東口の区画整理に伴う交通事情の変化を鑑み、どのような導線があるのかということも総合的に考えていかななくてはならないのではないかと。

また、この夏休みを利用して、通学路の一斉点検をするということなので、ぜひその結果は速やかに自治会の方にも流していただければありがたい。

(市長回答)

事前の質問の中にも未利用地の活用についてということで回答させていただきましたが、都市計画道路は長年計画はあるけれども、未着手のところの見直しを今進めているところでありまして、小貫山の計画も見直しにかかっているところです。

都市計画道路を仮に廃止か、そのままやるか、一部修正かという形になりますが、それと生活道路との組み合わせの中で交通量がどのようになるかを今調べているような状況です。その結果を地域の方々に知っていただいて、今後、計画を進めていくというような段取りになるかと思えます。担当課でも小貫山の交通量やその導線については調べていると私も報告を受けておりますので、ぜひ情報を共有させていただければと思っております。この件は、都市整備部の都市計画課で進めております。

7 道路・河川・都市計画担当部署の連携について（高野原自治会）

高野小学校周辺の道が非常に狭いため、危険に思いカーブミラーの申請をしようとしたら、緊急車両が通るのに支障があるので地主10人に許可を取って敷地内に建てられるよう手配するよう言われた。

また、用水路の周辺になると河川課の方で管理が変わる。セットバックの仕方も違ったりと非常に複雑であり、以前に道路の増設の話を用水路の問題で許可が下りなかったと聞いている。道路・河川等に係る部署はもう少し連携をとれないか。

(市長回答)

いわゆる生活道路が排水路をまたいでいるところについて、市の対応ということですが、確かに、部署をまたがるものに関しては所管しているいろいろな法令等も違ってきます。ですので、まずは、住民の方々には市のどこかにインプットすればまたぐ部署の話は市役所でさせていただいてこういう状況になっているということがわかるような、あまり専門用語ばかり使わないでご説明ができるような努力はさせていただきたいと思っております。

どうしても一定期間協議が必要な部分は、やはり出てきてしまいますので、その部分は我々の方でもスムーズにいけるように役所縦割りというのはいいい面もあり、そういう弊害

もありますが、部署間で情報をまとめて分かりやすくお伝えできるように努力をしてまいりたいと思います。

私の方からも事あるごとに、やはり説明の仕方一つだよということは職員に伝えているわけでございます。今日、3人で来ておりますけれども、部長職も例年はこの市政懇談会に出席する中で、説明の仕方をこういう場で鍛えられるところがあるのだと思います。

私の説明が分かり易いかどうかは、私も努力したいと思いますが、やはり部長職も市民の皆さん方とこういうやりとりを通じて、どういうふうにお伝えすればご理解いただけるのかという機会も来年以降、また考えながら、地域のご要望も承りながら進めていきたいと思っております。努力させていただきます。ご指摘ありがとうございました。

8 教育 ICT について (稲田自治会)

佐和高校では、各教室に 65 型の電子黒板が入っていて、1 年生にはクロムブックが導入されている。2・3 年生は自分のスマホを使い、電子黒板と紐づけて授業を展開しており、先進的であると感じた。子供たちは ICT に関して、取り扱いは早いようだが、先生が苦勞することがあるため、校長先生のお知り合いで週 2 回、ICT の普及員の方に来てもらって、教員に教えてもらう形をとっているという。他の学校でも参考になるのではないか。

(教育長回答)

確かに ICT につきましては、子供たちは非常に早く覚えます。小学校 1 年生でも、自由に授業の中で使っている児童もいます。やはり先生たちが、どれだけ授業の教材として、工夫をした使い方を出来るかが、非常にご重要になってくると思っております。

ICT の推進委員ですが、ひたちなか市では教育研究所に推進員が 1 人おりまして、さらにタブレットを購入した際に、ベネッセコーポレーションの推進員に来ていただいて各校の巡回指導をしております。

巡回指導の際、授業の中にも入っていただきながらやっているのですが、得意な先生とそうでない先生がいらっしゃいます。ツールとしてとなった時に、やはり自由に使いこなせるようなトレーニングというのは必要になってくると思います。ひたちなか市では、今年から ICT 推進委員会というものを教育委員会に立ち上げまして、ICT の専門家と高専の先生等も委員にお迎えし、今の教員のスキルアップをどうしていくかとか、それから子供たちの ICT を使った授業の進め方をどうしていくかということを協議し、それぞれが学校にまたおろしてやっていくようなシステムをスタートしたところです。

佐和高では週 2、3 回というお話でしたが、いろいろと情報いただきながら、参考にしていきたいと思っております。ありがとうございました。

9 イベント開催について

市が開催する勝田マラソンや産業祭等のイベントの今後の進め方について、どのような

考え方で進めていくのか。

(市長回答)

これまでは、何とか形を変えてもできる方法はないかというようなことで、様々な事業に取り組んでまいりました。

勝田マラソンに関しては、昨年はやはりリアルな大会をできないということでしたけれども、初めてオンラインマラソン大会と代替イベントを組ませていただいたところです。

年明け1月末のマラソン大会に関しては、今のところ規模を縮小した形で先ほどご指摘のように10km4,000人、それからフル8,000人と通常の半分ぐらいに人数を減らすような形でできる方法を今考えております。大会としては、公式記録が出る大会ですので、日本陸連、いばらき陸協と協議をしながらそれをクリアしているようなところです。

産業交流フェアについては、出展者の方々と協議をしながら、できる方向でいろいろ詰めておりますけれども、その時に導線をどうするのかとか、産業交流フェアだとどうしても飲食を伴いますので出店者がどうなのかとかいった部分も加味しなければいけないので、随時しっかり判断をしていきたいと思っております。

もう一つは、市内のワクチンの状況があるかと思いますが、先ほどのようにワクチンの供給がしっかりと今後もなされるということが前提ですが、大体今1か月に3万回ぐらい打っていることであると、11月ぐらいまでに計算上は6万人ぐらいの方々に2回接種ができる形ですので、そうなってくると全体の対象者の7割程度ぐらいになります。もちろん、それで全てが解決というわけではありませんが、接種状況についてもイベントの判断には繋がってまいりますので、その両輪を見据えながら判断していきたいと思っております。

マラソンに関しては、水戸もやる形で進んでいますので、三浜の方が少し早めの10月というところもありますので、連携して対策を考えたいと思っております。

市長まとめ

それでは大変長時間にわたりまして市政懇談会にご参加いただきましてありがとうございました。今日いただいた様々なご指摘を担当部署の方にもしっかりとつながせていただいて、一つひとつクリアしていきたいというふうを考えております。

今後コロナ禍ということで不透明な状況が続きますけれども、なるだけ様々なことができるように、若しくは形を変えてでも繋がっていくようにチャレンジをしていきたいと思っておりますので、引き続きご理解、ご協力をお願いしたいと思います。本日は長時間にわたりまして、本当にありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。